

わかりやすい予算書

—ことしのよさん—

飯豊町

2026

目次

01	脱炭素社会の実現に向けて
02-03	当初予算の概要
04-05	一般会計の歳入・歳出内訳
06-11	主要事業の概要
12-13	財政健全化指標

脱炭素社会の実現に向けて

飯豊町は2020年12月にゼロカーボンシティ宣言をしました。地球温暖化の進行が引き起こす異常気象と、それによる自然災害をはじめとする世界的な危機的状況に向き合い、脱炭素社会・循環型社会に向けた取組を一層推進することを表明したものです。町の面積の約8割を占める豊かな森林資源、バイオガス発電事業の実施実績など、飯豊町は脱炭素社会を実現するための資源と実践的な知見を有しています。令和7年5月には環境省が推進している脱炭素先行地域に選定されました。二酸化炭素の排出量と吸収量の実質ゼロを目指すゼロカーボンシティを達成するため、脱炭素先行地域事業を推進します。

また、脱炭素社会と環境に優しい循環型社会の実現は、地球に暮らす私たち一人ひとりが自分ごととしてとらえ、一丸となって取り組むべき目標です。「4R(*)」や省エネなど、家庭でできる環境活動を推進するため、環境意識の醸成と行動変容を促す取り組みを進めます。

*4R:廃棄物を減らし、資源を循環させるための4つの環境行動

- Refuse (リフューズ) : ごみになるものを家庭や職場に持ち込まないこと。過剰な包装や不要なものを断ること。
- Reduce (リデュース) : ごみの発生自体を減らすこと。
- Reuse (リユース) : 使用済みのものを捨てずに繰り返し使うこと。
- Recycle (リサイクル) : ごみを資源として再生利用すること。



飯豊町は平成30年に東北地方の自治体で最初の「SDGs未来都市」に選定されました。

先人たちから受け継いだ美しい田園散居集落景観と農ある暮らし、伝統文化を守りながら、住民が主体となって「誰一人取り残さない」まちづくりを目指しています。





飯豊町役場庁舎

自治体の1年間の予算

予算とは、4月から翌年の3月までの1年間の収入と支出の見積もりです。新しい年度が始まる前に、その1年間でどのくらいの収入があるのか、1年間の行政サービスをどのように行うのかを計画し、そのために使うお金を見積もります。予算を見れば、1年間に飯豊町でどのような収入があり、何に使う予定なのかがわかります。

飯豊町の令和8年度予算

一般会計、特別会計、企業会計すべての会計を合わせた予算額は、112億396万3千円です。

一般会計

79億9,252万4千円

前年度比 7.3% 増

前年度比 5億4,652万4千円 増

一般会計とは、飯豊町の行政サービスの基本的な分野、福祉や教育、公共事業などに係る収入と支出を管理する会計です。

特別会計

22億7,819万7千円

特別会計とは、特定の目的のための会計で、特定の収入があり、一般会計とは区別して、収入と支出を経理する会計です。飯豊町には、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計など、10の特別会計があります。

企業会計

9億3,324万2千円

企業会計は、民間企業と同じように事業収入によって運営する会計です。飯豊町では、水道事業会計と下水道事業会計があります。

予算編成の方針

町の財政状況は、令和4年8月及び令和6年7月の度重なる豪雨災害に対する復旧・復興経費に加え、大規模事業の元利償還開始による公債費の増大により、町独自の事業実施などに自由に使えるお金が少なく、財政の弾力性が低い状況が続いています。

令和8年度予算編成は、一般財源の支出抑制による財政健全化を図る観点から、事業の効果、必要性、内容などを総点検し、事業の見直し・再構築に努めました。複雑化・多様化する行政課題に迅速かつ的確に対応し、幸せに安心して暮らせる未来を実現するため、「最少の経費で最大の効果をあげる」という行財政運営の基本に立ちかえり予算編成を行いました。

厳しい財政状況においても、「暮らし満足度No.1のまち」実現への歩みを着実に進めるため、歳出はきめ細やかな精査と最適な配分、歳入は国庫支出金をはじめとする交付金や補助金などの活用を拡大し、次なる飛躍と成長の基盤を築くための施策を展開します。

予算の決め方と考え方

町長がまとめた予算案を町議会で審議し、議会の議決によって予算が成立します。各課から出た案を町長の考えに沿ってまとめ、予算案として町議会に提出します。町民を代表する町議会は、提案された予算案を様々な面から審議した上で、議決します。

年度の途中における状況の変化などに対応するための予算を「補正予算」といいます。当初予算と同様に議会の議決を得て決まります。



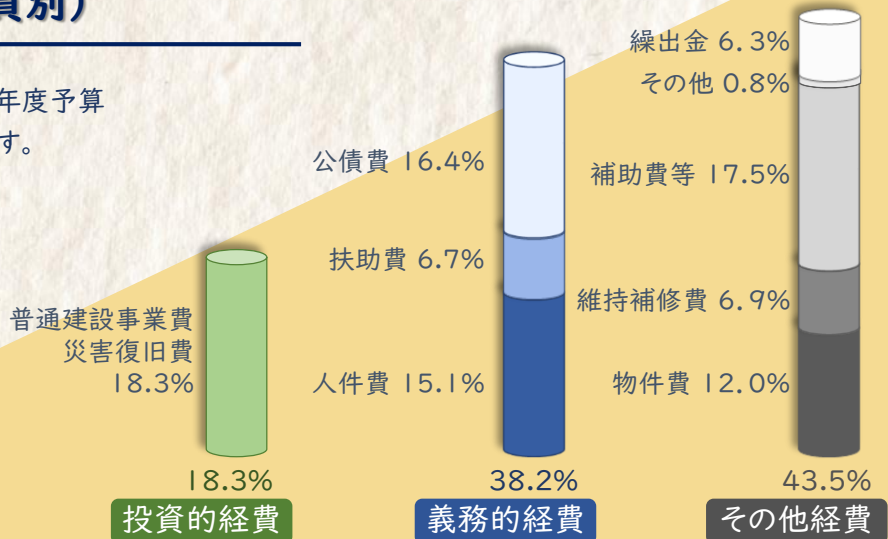
飯豊町議会議場

一般会計の歳出内訳（性質別）

歳出予算は性質別に分類でき、令和8年度予算79億9,252万4千円は、右の表になります。

一般会計予算総額に占める人件費、公債費など必ず支出しなければならない義務的経費の割合は38.2%です。

道路や公共施設など将来に残るものに支出される経費である普通建設事業費及び災害復旧費は、一般会計予算総額の18.3%となっています。



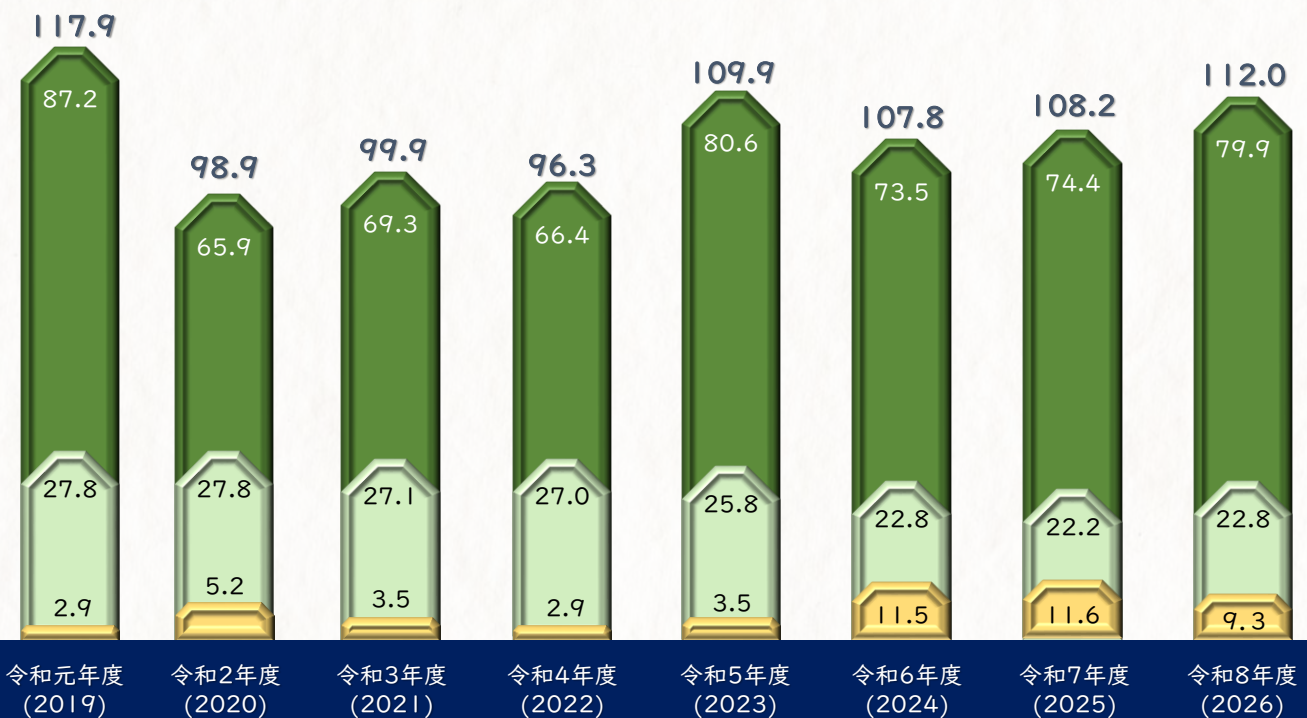
当初予算の推移

一般会計

特別会計

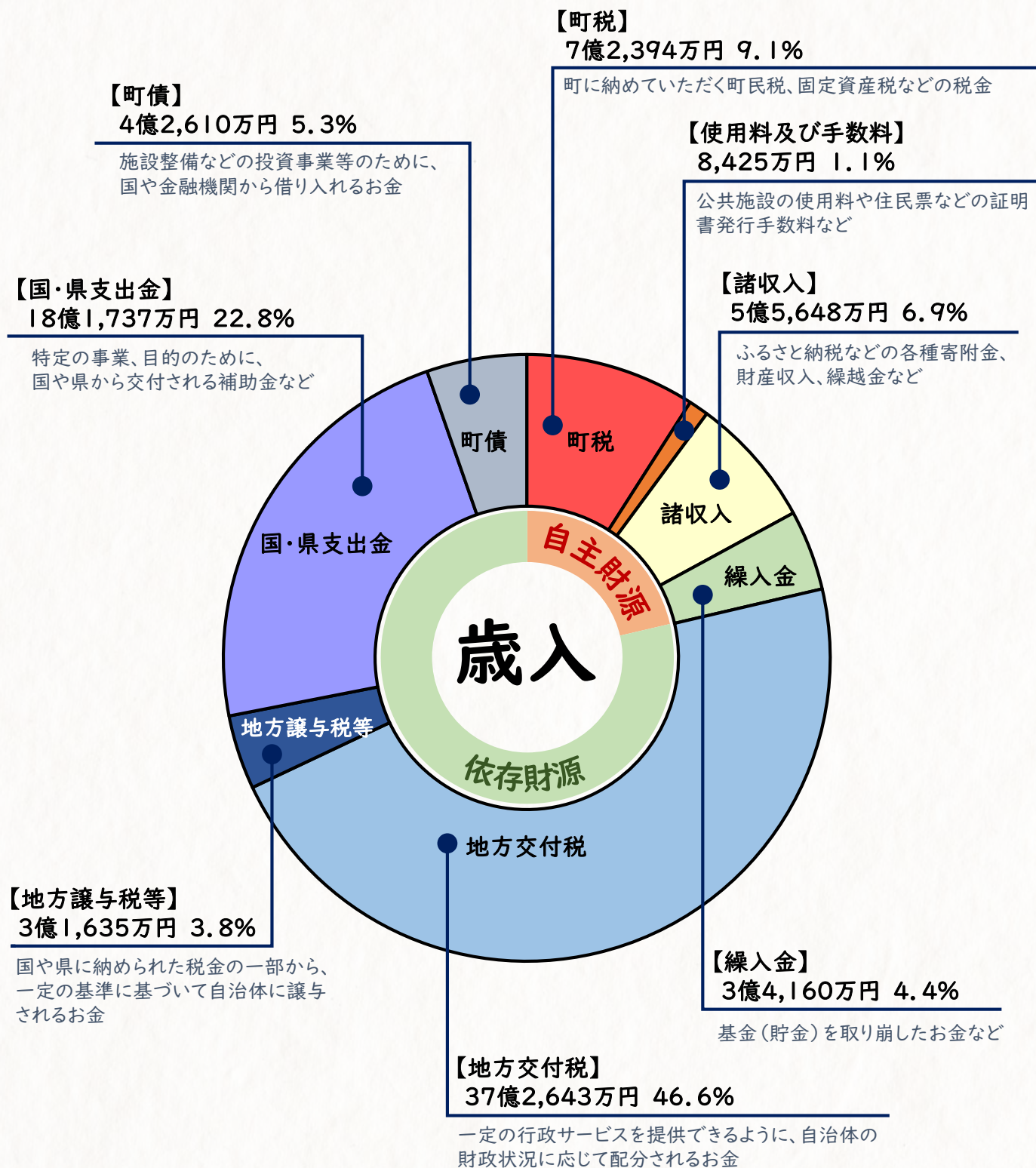
企業会計

単位:億円



※令和6年度から、下水道事業が特別会計から企業会計へ移行しています。

一般会計の歳入・歳出内訳

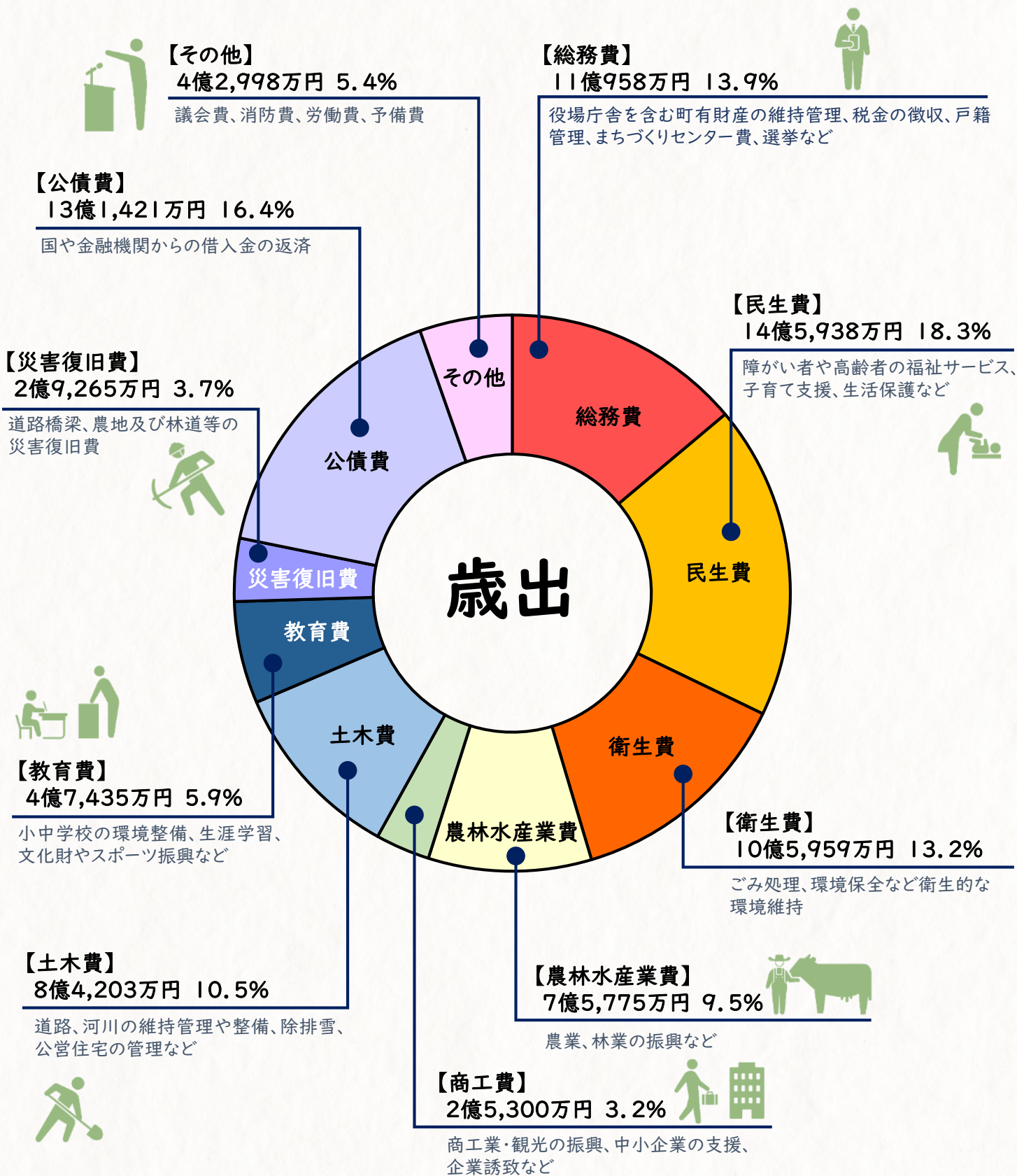


自主財源・・・町が自主的に収入できる財源

依存財源・・・国や県から定められた額を交付されたり、割り当てられる収入

歳出を内容区分ごとに分類したものを、歳出の「目的別」の分類といい、民生、教育、土木など13の目的の歳出があります。

令和8年度は、老人福祉や児童手当、子育て支援医療給付などの民生費が18.3%、地方債の償還にあたる公債費が16.4%となっています。





郷土をたがやすまち

地球温暖化防止事業【6億3,815万円】



令和4年8月、令和6年7月に飯豊町が被災した豪雨災害のように、近年、全国各地で大雨や台風による災害が発生しています。また、夏の猛暑も過酷さを増し、私たちの生活に影響を及ぼしています。これらの異常気象の要因として、地球温暖化があげられています。

地球温暖化は、私たち人間の活動による二酸化炭素などの温室効果ガスの増加によって引き起こされています。地球温暖化に対する取組が遅れば、今後も気温は上昇し続け、農作物の不作による深刻な食糧不足や、生態系の乱れ、海水面の上昇による島や沿岸都市の水没など、私たちの未来を脅かす事態となりかねません。

私たちが現在の生活を維持し、将来世代に安全な地球を引き継ぐために、飯豊町では2020年12月に、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。

令和7年度には米沢市と共同で環境省「脱炭素先行地域」に選定されました。令和8年度も、地球温暖化を防止するための脱炭素に向けた多様な取組を展開します。

【脱炭素社会実現に向けた令和8年度取組】

- ・バイオガス発電事業
- ・小水力発電設備事業
- ・太陽光発電設備事業
(太陽光発電設備への補助)
- ・蓄電池設備事業
(蓄電池設備への補助)
- ・省エネ設備事業
(高効率エアコン、エコキュート、断熱改修設備への補助)



縁をつむぐまち

空き家対策事業【654万円】



空き家イメージ

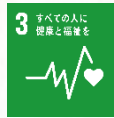
全国的な問題となっている空き家の増加。特に損傷が激しく、近隣の住環境に悪影響を及ぼしかねない空き家を老朽危険空き家と呼び、解体などの対策が必要となります。飯豊町では、老朽危険空き家の解体にかかる補助を令和6年度から上限100万円に引き上げ、所有者による解体を後押ししており、令和8年度も継続して実施します。

相続や移転により保有している空き家に関する相談に対応する「空き家無料相談会」を開催するほか、保存状態が良く活用可能な空き家は「空き家バンク」の制度を通じて、空き家所有者と空き家の購入・賃貸を希望する方をつなぎ、活用を促進します。



世代をつなぐまち

出産、子育てに関する支援



全国的な少子高齢化において、飯豊町でも年々出生数が減少しています。結婚・妊娠・出産・子育てに夢や希望を感じられる社会の実現と、すべての子どもが健やかで安全・安心に成長できる環境の構築が求められています。各種支援により、出産・子育てを応援します。



出産費用への補助【150万円】

妊婦の身体的、経済的負担を軽減し、出産・子育てをしやすい環境づくりの一つとして、出産費用の一部（15万円）を助成します。



第3子以降多子世帯支援【150万円】

第3子以降となるお子様を出産した場合、出産時、3歳到達時、6歳到達時の計3回において、それぞれ10万円を助成します。



赤ちゃんのおむつ用品クーポン券支給事業【112万円】

出産・子育て支援の一つとして令和7年度から実施しているおむつ用品クーポン事業の対象を生後1歳までの赤ちゃんの保護者に拡充し、上限を4万8千円としておむつ用品クーポン券を支給します。クーポン券は、提携しているお店でおむつ用品を購入する際に利用できます。

第2子以降のこども園無料（※同時入園の場合）

1世帯につき、こども園の入園が2人以上となる場合、第2子の分のこども園保育料を無料にします。



人をはぐくむまち

こども食堂から始まる地域のウェルビーイング実現事業【159万円】

令和7年度から実施しているこども食堂「みらいろキッチン」を継続し、地区まちづくりセンター等を拠点として、月1~2回程度で地域食堂を実施します。単にごはんを食べるだけでなく、参加される方も協力できる方も、一緒にごはんをつくる、一緒にごはんを食べる地域食堂を展開します。一緒にごはんを食べることで、自然な交流から地域での新たな関係性が生まれていく。こども食堂を通じて共感や応援の輪が広がっていくことで、地域のみんなの居場所が広がっていく、そうした地域食堂を目指します。





世代をつなぐまち

老人福祉費【2億715万円】



飯豊町の高齢化率は42.6%（令和8年4月1日時点）、一人暮らしの高齢者の割合は14.9%（令和7年4月1日時点）と、県内でも高い割合となっています。畑づくりをはじめ、趣味や旅行などの諸活動に積極的なアクティブシニアが増えている今、高齢者の元気が町の元気につながります。高齢者の安心でいきいきとした暮らしづくりを支えます。

安心生きがい訪問事業や、緊急通報システムの運用などの事業を継続すると共に、令和8年度は数え年100歳の方に20万円のお祝い金を贈呈します。また、物価高騰対策として65歳以上の方に5千円分の商品券を配布します。



縁をつむぐまち

観光交流に関する事業



水没林のカヌー



飯豊山と白川湖

白川湖の水没林は全国的に認知度が高まり、訪れる観光客も年々増加しています。令和7年2月には、白川湖の水没林における地域一体となった取組が評価され「スポーツ文化ツーリズムアワード2024」を受賞するなど、観光だけにとどまらない評価を得ています。また、ナショナルジオグラフィックにて「2026年に行くべき世界の旅行先25選」に山形県が選出され、その中でも白川湖の水没林が紹介されるなど、魅力が広く周知されています。令和7年4月には白川ダム河川空間のオープン化の指定を受けました。今後は、飯豊町全体の観光の魅力向上を目指し、現在休館となっているフォレストいいでの再生をはじめ、町の特産品・資源を活かしたにぎわい創出や地域活性化の早期実現を目指します。

グリーンツーリズム推進事業	126万円
観光施設管理事業	1,218万円
観光広告宣伝事業	473万円 ほか



縁をつむぐまち

移住定住促進事業【609万円】



人口減少対策として、飯豊町に移住する人を増やし、定住を促進する必要があります。飯豊町には四季折々の美しい自然、伝統的な農村文化、豊かな食材などの多様な資源があります。これらを一体的に体験し、飯豊町での暮らしの魅力を感じることでできるツアーの実施や、移住に関心を持つ方へのPR、そして東京23区から町へ移住した方に対する移住支援金などにより移住を促進します。また、町に住む方にとっても魅力的なまちづくりを推進します。



菅笠づくり体験



可能性をひらくまち

ふるさと納税【1億5,157万円】

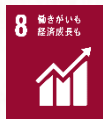
ふるさと納税は、町外に住む方が飯豊町を応援するために寄附をし、寄附者本人が寄附をした金額や所得に応じて、住民税や所得税の控除を受けることができる制度です。寄附を受けた自治体は、お礼として特産品を送ることができます。ふるさと納税は、町の貴重な財源の一つであるとともに、飯豊町の魅力ある産品を町外の方に知っていただく機会でもあります。寄附者に選んでいただける新たな特産品の考案や、特産品の魅力が伝わるウェブサイトでの情報発信などとともに、町内の生産者の皆様のご協力のもと、寄附した方にも返礼品を送った町内事業者にも喜ばれるふるさと納税事業を推進します。



可能性をひらくまち

企業版ふるさと納税【400万円】

企業版ふるさと納税は、町の地方創生の取組に対して企業が寄附をする仕組みであり、町の事業推進の強力な後押しとなります。企業へ直接PRする機会や、町の事業と関連のある企業をマッチングする支援などを活用しながら、賛同いただける企業と寄附の増加を目指します。



縁をつむぐまち

椿住宅団地管理費【740万円】

椿住宅団地（エコタウン椿）は、移住定住促進事業の一環として町が造成した住宅地です。環境と健康に優しい「飯豊型エコハウス」を建設することなどを条件にしています。令和8年度は、この椿住宅団地を購入し、飯豊型エコハウスを建設する新婚世帯・子育て世帯を対象に、住宅取得支援として200万円を補助します。



人をはぐくむまち

学校・家庭・地域の連携協働推進事業【598万円】

学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割を果たし、社会総がかりで子どもたちの健全育成と「学校を核とした地域づくり」を目指します。小中学校に地域学校協働活動推進員を配置し、学校、家庭、地域の相互連携の強化を図ると共に、幼児教育ふれあい広場、山形子育て講座などを実施し、地域で学校を支え子どもを育てる意識を醸成します。





郷土をたがやすまち

除雪事業【4億4,920万円】



町道除雪

特別豪雪地帯である飯豊町の暮らしは、雪と切り離すことはできません。冬期間の平均で見ると平年並みの降雪量でも、一日あたりの降雪量が顕著に多い日などもあります。冬期間の安全で安心な暮らしと交通を確保するため、道路の除雪体制を整え、消雪設備を維持します。

町で所有している除雪車が老朽化していることから、令和8年度はロータリ除雪車を1台整備し、除雪力の強化を図ります。



郷土をたがやすまち

道路維持事業【2億6,542万円】



道路、橋梁などの交通インフラを適正に維持管理します。町道の維持管理のほか、橋梁の補修・再塗装について計画的に実施します。

路線の拡幅など、継続して改築を実施している町道手ノ子高峰線は、令和7～10年度を工期に西高峰橋の架け替え工事を実施しています。

また、飯豊山登山道へとつながる町道岳谷大日杉線は、令和7年春の融雪による水量増加が要因と思われる護岸の洗掘により道幅が狭くなっています。護岸工事を実施し、安全に通行できる道路を維持します。



西高峰橋



郷土をたがやすまち

軽四輪小型動力ポンプ付積載車整備事業【1,676万円】



整備予定同型車両

消防団は、消火活動のみならず、地震や風水害時に、救助救出活動、避難誘導、災害防御活動など、非常に重要な役割を果たしています。平常時においても、住民への防火指導、巡回広報、特別警戒、応急手当指導など、地域に密着した活動を展開し、地域における消防力・防災力の向上に貢献しています。

令和8年度は、軽四輪小型動力ポンプ付積載車を2台整備します。



人をはぐくむまち

音楽からのまちづくり事業【164万円】



めざみの里音楽祭

合唱やミュージカル、楽器演奏などの音楽活動や音楽鑑賞を通じて、住民の連帯感や郷土愛を育み、文化的で創造的な地域づくりを目指します。

めざみの里音楽祭、子ども芸術鑑賞教室、フェット・ド・ラ・ミュージックなどにより、年間を通じて全ての世代が音楽に触れ、音楽に親しむ機会を創出します。



人をはぐくむまち

まちづくり事業【1,335万円】

各地区の地区別計画を推進するための活動、地域づくりに係る事業を支援する「地域づくり推進事業費補助金」のほか、地域づくりにつながる各種事業を支援します。

住民主体による地域課題解決の基盤となる、多様な主体の地域参画を促すため、多世代の交流と協働による地域づくりの実践活動を通じて、新たな地域の担い手の創出と地域活性化が継続的に広がっていくことを目指します。



補助金を活用した事業
(クリスマスマーケット)



可能性をひらくまち

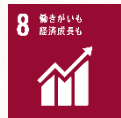
商工業振興事業【3,764万円】



町内の中小企業の振興が地域経済の活性化や社会活動の活発化、そして町全体のにぎわいにつながります。このことから、「飯豊町中小企業振興事業費補助金」を継続し、創業支援や既存企業の事業機能強化・向上等を支援します。

「電動モビリティ地域共創コンソーシアム」を中心に、モノづくりへの興味喚起のための学びの場の提供などにより人材育成を推進し、地元に着する若者を増やしていく取組を展開します。

また、令和8年度も飯豊町商工会加盟店舗で利用可能なプレミアム付商品券を発行し、町内店舗の利用拡大につなげます。



可能性をひらくまち

持続可能な森林づくり事業【1,562万円】

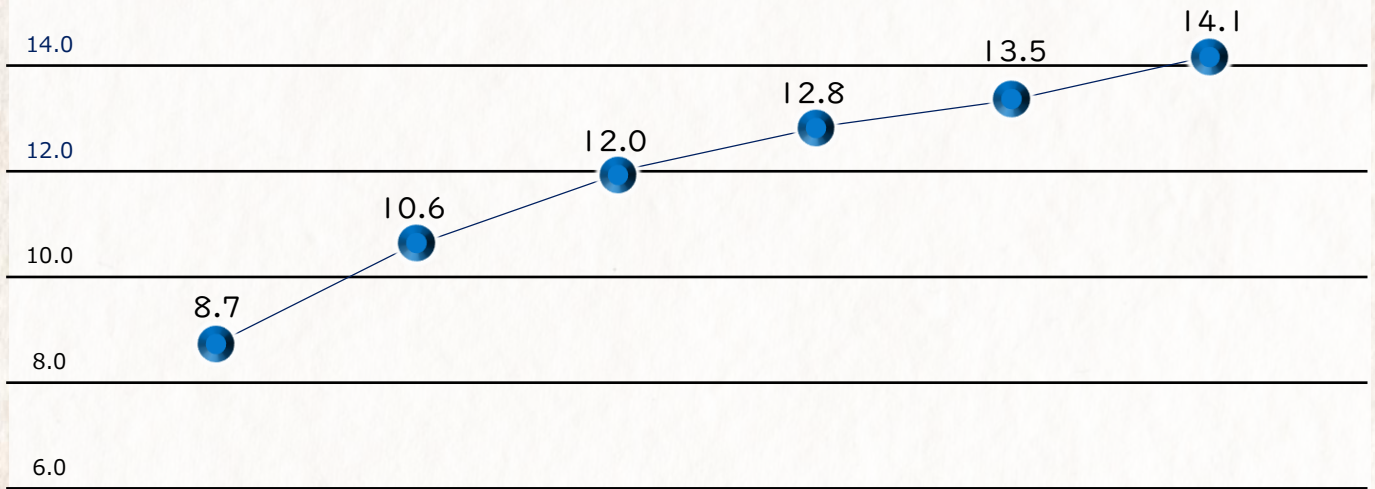
飯豊町の面積の約8割が森林です。森林は、土砂災害の防止や水源の涵養、地球温暖化防止など、自然環境を維持し、私たちの安全な暮らしを守ります。林道の整備、病虫害による被害木の伐採などを通じて、森林環境を適切に管理します。

また、手入れが行き届かずに放置されている森林を、市町村が仲介役となり森林所有者と林業事業体をつないで適切な管理を行う森林経営管理制度の促進のため、所有者ごとの境界の確認を進めます。



実質公債費比率

単位：%

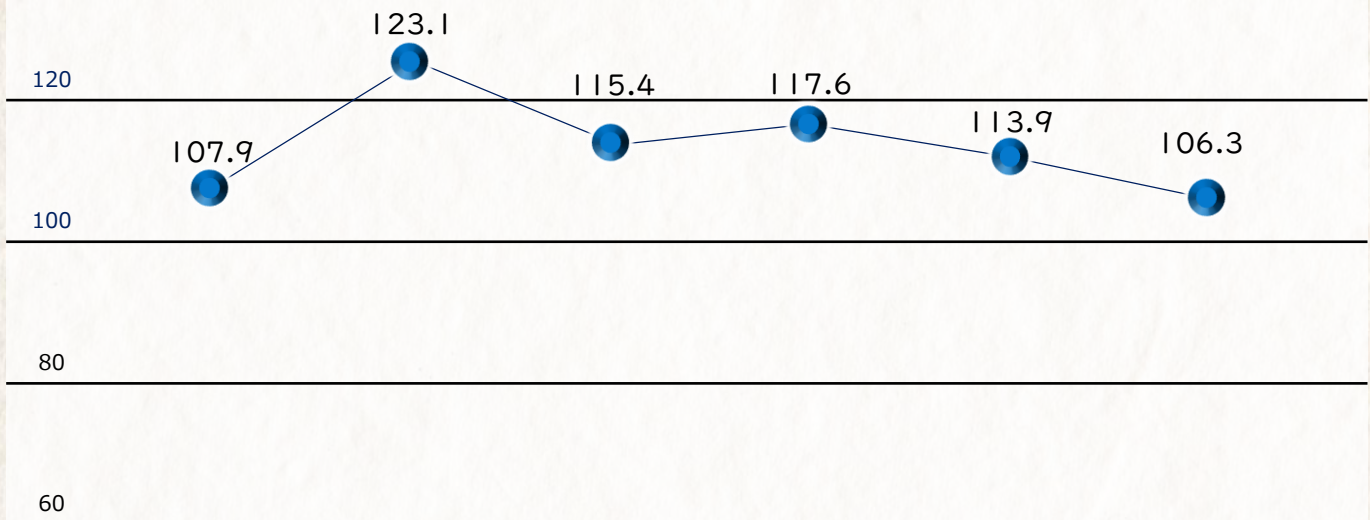


令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)
8.7	10.6	12.0	12.8	13.5	14.1

実質公債費比率は、一般会計等が負担する地方債の元利償還金(町の借入金の返済金)などの大きさを標準財政規模に対する割合で表した比率です。この指標が18%を超えると起債(借金)をする際に知事の許可が必要となり、25%を超えると一部の起債が制限されます。令和6年度は14.1%となっています。

将来負担比率

単位：%



令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)
107.9	123.1	115.4	117.6	113.9	106.3

将来負担比率とは、地方債や職員の退職金など、一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の大きさを標準財政規模に対する割合で表した比率です。この比率が高い場合、将来これらの負担額を実際に支払う必要があることから、今後の財政運営が圧迫されるなどの問題が生じる可能性が高くなります。令和6年度は106.3%となっています。

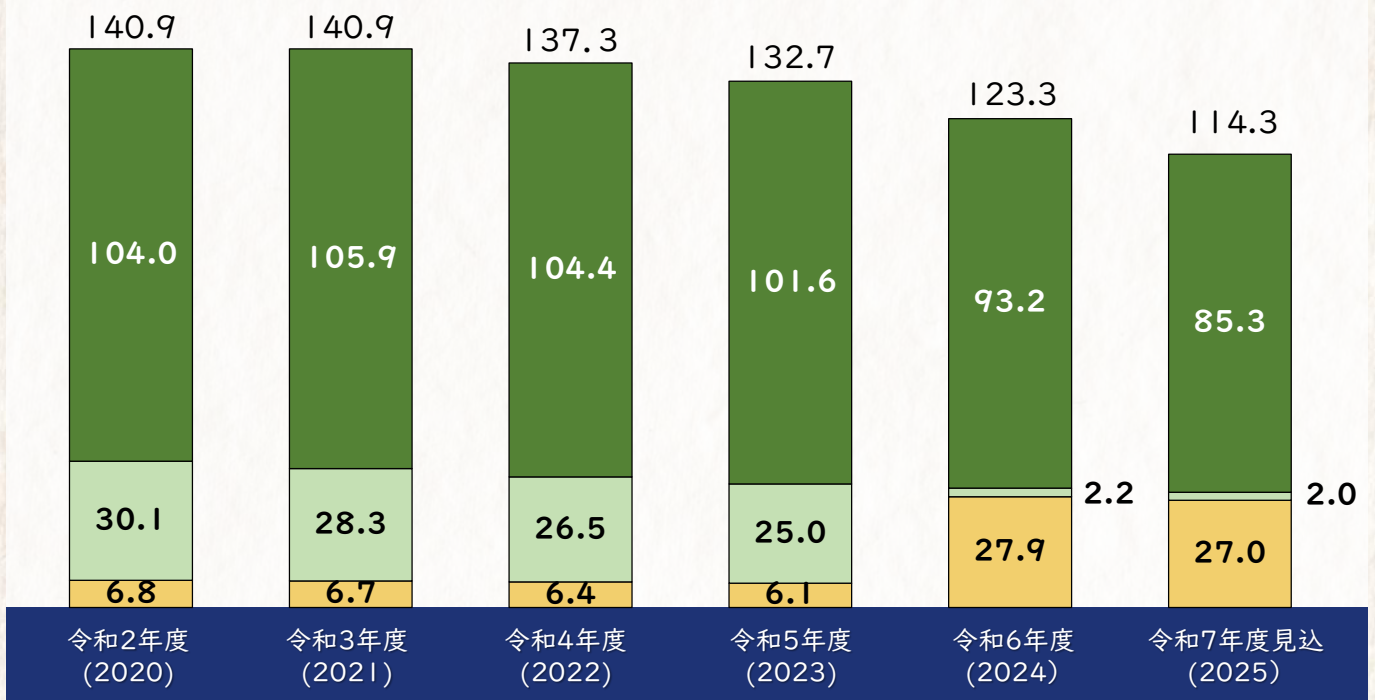
町債残高

一般会計

特別会計

企業会計

単位:億円



町債は、大きな事業をするときに、国や金融機関等から借りる資金です。道路や建物などは、たくさんの人が利用することから、その年の予算だけで賅うのではなく、将来の町民の方にも費用負担いただく「負担の公平化」も、町債を発行する理由の一つです。令和2年度は約140億9千万円。令和7年度は約114億3千万円になる見込みです（下水道事業が令和6年度に特別会計から企業会計となったことに伴い、令和6年度から特別会計・企業会計の数値の差が大きくなっています）。

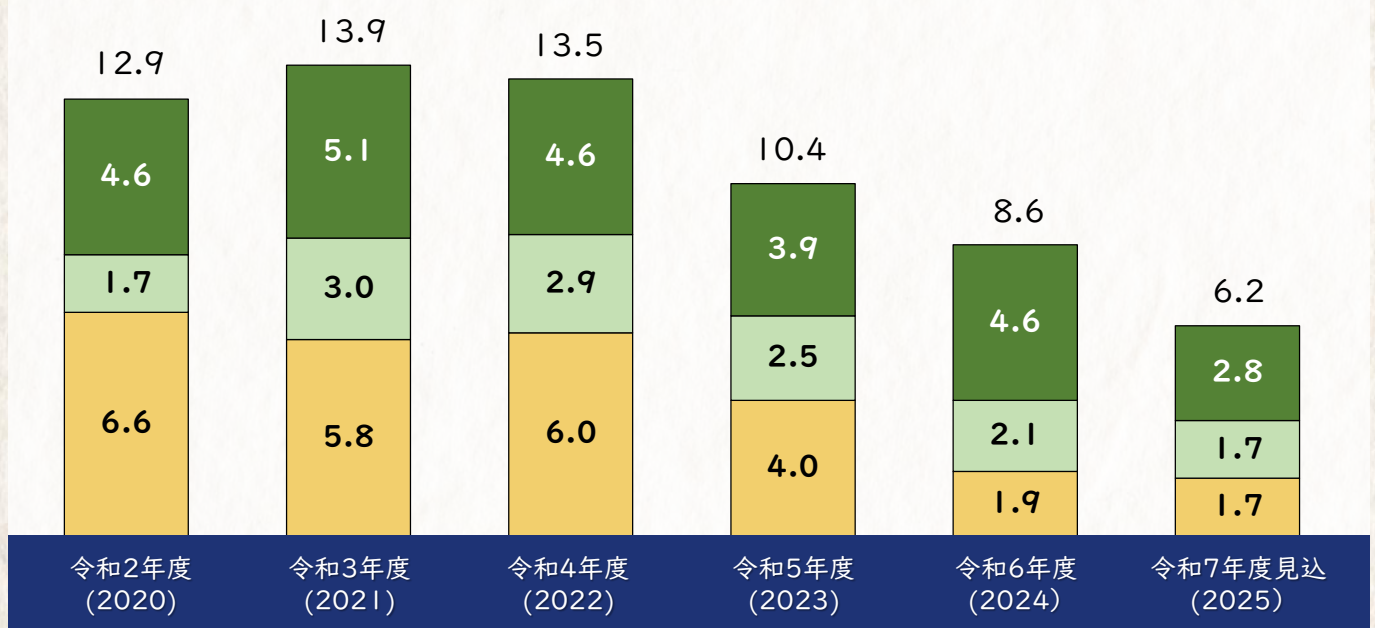
基金残高

財政調整基金

減債基金

その他基金

単位:億円



基金とは、特定の目的のために財産を維持し、資金を積み立て、または定額の資金を運用するために設ける財産です。家庭で言えば貯金です。年度間の財源不足に備えるための「財政調整基金」、町債の償還(借金の返済)に必要な財源を確保し、財政の健全な運営を行うための「減債基金」などがあります。令和2年度は、約12.9億円。令和7年度は約6億2千万円になる見込みです。

飯豊町はNPO法人
「日本で最も美しい村」
連合に加盟しています



the most beautiful
villages in japan

飯豊町
山形県

わかりやすい予算書
飯豊町 2026



〒999-0696
山形県西置賜郡飯豊町大字椿2888番地
TEL (0238)87-0520